

2021年度 保健医療科学研究科【結果】

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
<p>1. 入学者に対する修了者比率100%(KPI)、授業アンケートでの授業評価4.9(KPI)、学修ルーブリックでの自己評価3.2以上(KPI)を目標とする。</p> <p>1) 対面での授業、オンラインでの授業の特質を活かして授業の質を高める。</p> <p>2) 2020年度修了生の学修到達度(ルーブリック)で達成度の低かった、英語力、統計処理、倫理申請について授業において強化を図る。</p>	<p>授業・特別研究を実施し、下記の指標で効果を測定する</p> <ul style="list-style-type: none"> 学修成績 授業アンケート評価 就職率 ルーブリックによる学修評価 入学者に対する修了者比率 修了時アンケート 	<p>前期授業評価、後期授業評価実施</p> <p>就職率:88.9%</p> <p>2年次の開始時、修了時にルーブリック評価実施</p> <p>入学者に対する修了者比率94.7%(18/19)</p> <p>教育評価アンケート実施(15/18回答)</p>	<p>1) オンラインと対面を併用して授業を実施。昨年よりオンライン授業はスムーズに実施できた。また、昨年度に人を対象とする研究の手順書を作成したので、研究における測定も大きな問題はなく実施できた。授業評価は昨年度の4.9からやや低下し、ルーブリック評価平均も昨年の3.1よりやや下がった。入学者数に対する終了者数は18/19(94.7%)で、1名が修士論文を期限までに提出できず、継続となった。</p> <p>2) ルーブリック評価では1年次開始時、2年次開始時、修了時で評価が1～2段階上がっており学修が進んでいる。平均が平均的水準の3.01であり、昨年に引き続き英語力(2.06)、論文作成(2.33)が低い評価であった。</p>	<p>前期授業評価:4.55</p> <p>後期授業評価:4.74</p> <p>就職率:88.9%</p> <p>ルーブリック平均点:3.01/5.0</p> <p>入学者に対する修了者比率94.7%(18/19)</p> <p>教育評価アンケート実施(15/18回答)</p> <p>全体に、非常に満足～まあ満足</p>	<p>1) オンライン授業は日中、勤務する学生には時間的なメリットがあり、オンラインと対面にお授業を継続する。研究の倫理面も含め、2年間で修士論文が完成するよう研究計画、中間発表の段階で進捗状況を確認する。3年間で修士論文を作成する制度も検討課題である。</p> <p>2) ルーブリック評価の低かった英語力、論文作成については科目編成や科目での授業内容を検討する。2022年度は共通コア科目で研究計画に関する授業を設ける。</p>
<p>2. 年間の学生の学会発表、論文投稿数を2年生在籍人数19名と同じ19件として、2年間で1人1件以上の学会発表、論文投稿を目標とする。</p> <p>1) 学会発表や論文投稿も含めた修士課程2年間の研究計画を立てる。</p> <p>2) 中間発表において研究の進捗状況を確認する。</p> <p>3) 学会発表奨励金などを活用し、学会発表を支援する。</p>	<p>下記の指標で効果を測定する</p> <ul style="list-style-type: none"> 学会発表・論文投稿数 学会での賞の授与 倫理審査申請件数、承認件数、審査期間 	<p>学会発表13件、論文投稿3件</p> <p>倫理審査申請12件、承認10件</p>	<p>研修生の学会発表は13件、論文投稿は3件あり(2020年度:学会発表13件、論文投稿4件)、昨年同様の件数であった。学会の開催がほとんどオンラインとなった影響もある。</p>	<p>学会発表13件、論文投稿3件(16/19:84%)</p> <p>倫理審査申請12件、承認10件</p>	<p>修士学生の基礎的なスキルとして、学会発表や論文投稿に関する授業を検討する。また、学会発表や論文投稿を促す。</p>
<p>3. 保健医療科学研究科の定員20人の確保を目標とする。</p> <p>1) 学部学生への研究科紹介や研究発表会への学部学生の参加を促す。</p> <p>2) FDにおいて、保健医療科学研究科の強みや授業・研究の方向性を再検討し、魅力ある研究科を目指す。</p> <p>3) 検討内容に基づきホームページを見直し、改変する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 受験数及び入学者数 FDアンケート結果 研究科委員会議事録 	<p>受験者数17名、入学者数16名、科目等履修生2名</p> <p>FD2回実施</p> <p>HPに研究内容紹介を追加</p>	<p>2022年度の入学者数は16名であり、定数の20名には達しなかった。勤務先でのコロナウイルス感染の影響で受験を控えたケースもあった。FDや研究科委員会で検討し、HPに指導教員の研究内容について追記した。</p>	<p>受験者数17名、入学者数16名、科目等履修生2名</p>	<p>学部での研究科の紹介や研究科ホームページの更なる改善等を行い、安定した研究性の確保に努める。</p>
<p>4. 保健医療科学研究科の授業・研究方針を再検討し、学修・研究面での向上を図る。</p> <p>1) FDで教員の研究の紹介、授業内容の紹介を行い、共同研究を促しや魅力ある授業の構築を目指す。</p> <p>2) 中・長期ビジョンとして、より高いレベルの研究や学生の研究の継続性などを考慮して、博士課程について検討する。</p> <p>3) 認証評価結果を踏まえ教育課程の体系化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題研究の明文化、カリキュラムマップの作成、科目ナンバリングの実施 <p>4) 認証評価結果を踏まえ、適切な教員組織の編成と運営を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教授・准教授・助教、専攻別、男女比、年齢、学術型教員、専門領域のバランスのとれた教員編成 	<p>FDを実施し、下記の指標で効果を判定する</p> <ul style="list-style-type: none"> FDアンケート結果 	<p>FD2回実施</p> <p>カリキュラムマップ作成</p> <p>科目ナンバリング実施</p>	<p>1), 2) 研究科のFDを2回開催し、研究科の課題や今後の方向性について検討した。定員数の確保、学生の基礎的研究スキルの向上、研究環境の充実、大学院博士課程の設置などが検討課題としてあがった。2020年度末に1名、2021年度末に3名の教員の退職があり、研究科教員や科目の再編成を行った。</p> <p>3) 認証評価における指摘事項であったカリキュラムマップの作成、ナンバリングについては、2022年度の要覧から掲載する。</p>	<p>カリキュラムマップ、科目ナンバリングは2022年度研究科要覧に掲載する予定</p>	<p>認証評価での指摘事項である、「教育課程の編成・実施方針に関する基本的な考えを示していない(是正課題)」、「特定の課題の研究成果の審査基準を策定しない。これを定め公表すること(改善勧告)」について、一部検討したが今後の課題である。</p>
<p>5. B's Vision 2024に向けての計画</p> <p>1) 国際化に対応した地球市民の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際学会での研究発表、英文誌投稿の推進 英語での授業の導入検討 <p>2) ストレス耐性を持った人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕事をもつ研究生への支援 <p>3) 永久サポート大学</p> <ul style="list-style-type: none"> 修了生を対象とする研修会・研究発表会の開催検討 <p>4) 教育力日本一</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学者に対する修了者比率100%の維持、学修ルーブリックでの自己評価3.2以上を目標とする。 学修関連、研究機器等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 国際学会発表・英文論文投稿数 入学者に対する修了者比率 就職率 学修成績 ルーブリック評価 学生アンケート 	<p>国際学会発表なし</p> <p>入学者に対する修了者比率94.7%(18/19)</p> <p>ルーブリック平均点:3.01/5.0</p>	<p>2021年度は海外での研究発表がなかった。また、ルーブリック評価において英語力について評価が最も低かった。また、修士論文を期限までに作成できず継続研究となった院生が1名あり、入学者に対する修了者比率が100%にならなかった。</p>	<p>国際学会発表なし</p> <p>入学者に対する修了者比率94.7%(18/19)</p> <p>ルーブリック平均点:3.01/5.0</p>	<p>学生の基礎的研究スキルの向上、研究環境の充実、大学院博士課程の設置などが課題である。また、定職を持つ学生とうについては、3年間で修士論文を作成することを可能とする制度も検討する必要がある。</p>

2022年度 保健医療科学研究科

PLAN(計画)
<p>P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。</p> <p>1. アドミッション:定員20人の確保を目指す(KPI)。</p> <p>1) 学部学生に大学院生の研究紹介、修士論文中間発表会・最終試験への参加を促す。</p> <p>2) 学部卒業生を含む社会人を研究に誘う。</p> <p>3) 研究科のホームページをアップデートする。</p> <p>2. カリキュラム:授業アンケートでの授業評価4.9(KPI)を目標とする。</p> <p>1) 適切な学修環境の維持と改善を図る。</p> <p>2) 教育課程の編成・実施に関する基本方針を公開する(認証評価への対応)。</p> <p>3) 多様な学修動機・目的に応える。</p> <p>4) 適正な教員組織の維持を図る。</p> <p>3. アセスメント:学修ルーブリックでの自己評価3.2以上(KPI)を目標とする。</p> <p>1) 英語力を上げる。</p> <p>2) 論文作成に関する指導を充実させる。</p> <p>4. 研究:大学院生による年間学会発表・論文投稿数の目標を2年次在籍者数25と同じ25件(研究KPI)とし、2年間で1人あたり1件以上の学会発表・論文投稿を目指す。</p> <p>1) 研究倫理承認の過程について理解を深める。</p> <p>2) 研究発表・論文投稿に関するスキルを上げる。</p> <p>5. ディプロマ:入学者に対する修了者100%(KPI)を目標とする。</p> <p>1) 研究計画立案の力をつける。</p> <p>2) 中間発表において進捗状況を確認する。</p> <p>3) 修士論文査読の過程について協議する。</p> <p>6. B'Vision 2024に向けての取り組み</p> <p>1) 国際化に対応した地球市民の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語力をつける。 <p>2) ストレス耐性を持った人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働する。 <p>3) 永久サポート大学</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会と連携する。 <p>4) 教育力日本一</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題の発見に取り組む。